

塚田 知香（つかだ ともか）

経営学部助教。修士（文学）。

専門分野／臨床心理学、産業・組織心理学精神保健福祉士、シニア産業カウンセラー。



早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程満期退学。企業従業員のメンタルヘルステーマに心理的ストレスの観点から研究を行う傍ら、精神科クリニックや企業内カウンセリングチームを経験。大正大学非常勤講師、白梅学園非常勤講師を経て、東京成徳大学経営学部助教に就任。

著書：「期待されたサポートと受容されたサポートの測定」
|『ソーシャルサポートの測定と介入』共著,川島書店

2010 年度ゼミ活動報告

本学では、2年生後期に“課題研究入門”という必修科目を設けています。この科目は、3年生より本格的に始まるゼミナールでの指導に向け、2年生からゼミに所属して各専門分野の基礎を習得するものです。各ゼミの所属学生を5名前後としているため、指導内容や方法は学生の興味や学習の進捗状況に応じて、柔軟に展開することができます。今回は、私の担当するゼミの活動内容をご紹介します。

塚田ゼミは、臨床心理学や産業組織心理学を学んでいますが、研究の初学者である2年生は、そもそも研究とは、論文とはどのようなものか、経験を通じて理解することを目標として進めています。そのため、今年度は、1人1人の学生が興味を持った論文を毎週1本ずつとりあげ、全員で予習をし、ゼミでの議論を通して理解を深めることから始めました。

予習や議論の進め方は、安永（2006）を参考に、教員はサポートに徹し、学生が主体的に議論を進めていく形式をとりました。当初は自分達で議論を進めることに苦戦していた学生達でしたが、回を重ねるうちに自然体で議論に参加できるようになり、研究や論文というものを理解し始め、論文を数本読み終える頃には、自分達も論文を書きたいと希望するまでになりました。

そこで後半は、経営学部懸賞論文への応募という目標を掲げて論文作成に取り組みました。全員でテーマを考え、分担して2本の論文に取り組むことになり、締め切り直前は本当に寝る間も惜しんでの作業となりました。惜しくも入選は逃がしてしまいましたが、論文を一から作り上げることの大変さ、共同作業の良さ・難しさ、締め切り直前の切迫感、提出できた瞬間の達成感を、生達はそれぞれに実感し、成長したことと思います。

現在の学生達は、3年生の“課題研究”ではどんなチャレンジをしようかと、今からいろいろと計画を立てて楽しみにしています。私自身も、いつも私の予想を超えてくれる学生達が今度は何をしてくれるのか楽しみにしつつ、自分も負けないように精進する毎日を送っています。

～ 2010年度 塚田ゼミ活動概要 ～

前半 《研究, 論文についての基礎学習》

予習・議論の進め方の学習

各自の興味をもとに論文を選定し, 精読

【取り上げた論文】

安永(2006) 大学での学習法

小城(2003) 神戸小学生殺害事件の新聞報道における目撃証言の分析

志岐(2006) 他者への同調とタレントへの役割期待が笑い反応に及ぼす効果

金政(2006) 恋愛関係の排他性に及ぼす青年期の愛着スタイルの影響について

山内・須藤・丹野(2008) 被害妄想観念と性格特性5因子モデルおよび帰属スタイルとの関連 など

後半 《経営学部懸賞論文の作成》

テーマの決定

文献調査, フィールドワーク

論文作成・添削

【執筆した論文】

増子 笑・麻生沙希 「無添くら寿司の経営戦略」

林 勇夢・坂内俊宣・沈 純妃 「飲食業牽引企業の経営戦略」

[文献]

□金政祐司(2006)恋愛関係の排他性に及ぼす青年期の愛着スタイルの影響について, 社会心理学研究, 22(2), 139-154.

□小城英子(2003)神戸小学生殺害事件の新聞報道における目撃証言の分析, 社会心理学研究, 18(2), 89-105.

□志岐裕子(2006)他者への同調とタレントへの役割期待が笑い反応に及ぼす効果, 社会心理学研究, 22(2), 189-197.

□山内貴史・須藤杏寿・丹野義彦(2008)被害妄想観念と性格特性 5 因子モデルおよび帰属スタイルとの関連, カウンセリング研究, 41(2), 161-168.

□安永 悟(2006)実践・LTD 話し合い学習法, ナカニシヤ出版.